

農業振興活動

(1) 担い手の育成対策

TACによる担い手ニーズに応じた個別支援に取り組み、法人化へのサポートや経営相談活動、生産資材の情報提供等の充実につとめました。

(2) 京都ブランド等地域特産物の生産振興への取り組み

京都米については、「KOS-180」運動を徹底し、各地域組織より情報誌の発行や携帯メールにより情報を発信し、品質の向上と良食味生産に取り組みました。

また、京野菜については、生産者部会活動を重点においた活動支援を行い、品質の均一化による販売力の向上と販売促進活動による情報収集により京都ブランドの品質向上と安定生産につとめました。

豆類については、小豆、黒大豆を中心に産地の拡大に取り組み、栽培管理情報の発信と増収技術の徹底による安定生産に取り組みました。

(注)「KOS-180運動」とは、「緩効性肥料(K)の施用、遅植え(O)、疎植(S)を組み合わせ、1等米比率を80%以上にしよう!」という運動により、安心して美味しい京都産米づくりを目指すものです。

(3) 生産資材と営農施設の利用

広域営農センターを中心に地域の実情を踏まえた低コスト資材を利用した「栽培こよみ」を作成し、統一注文書による資材の共同購入を提案しました。

営農施設の運営については、広域的な運用と計画的な施設投資を行い、効率的な稼働につとめました。

(4) 食の安全・安心対策の徹底

GAPは統一モデル品目から地域ごとの特産品へ拡大をはかり、各種研修会によりGAP手法の実践と理解を深めました。

また、生産履歴の記帳指導と併せ、残留農薬検査により生産履歴を検証し安全・安心な農産物の提供につとめました。

(5) 生産農家と消費者を結ぶ取り組み

地産地消の拠点とする農畜産物直売所「たわわ朝霧」では、京都ブランドの優位性を最大限活用した新鮮で安心な農畜産物の供給と今搗き米の対面販売を行い、「食」と「農」を結ぶ架け橋、消費者との交流の場として地域をはじめ府内外からも多くの方にご利用いただきました。

(6) 健全な食と農を伝える取り組み

協同組織の活動を中心にくらしの活動を積極的にすすめ、地域の活性や暮らしを充実させるための支援に取り組むとともに、次代を担う子どもたちに食農教育活動をとおり「食」や「農」を身近に感じる体験活動を実施しました。

酪農センターでは牛乳の加工販売事業を行っており、地元の保育園や小学校へ牛乳の供給を通じて、児童の発育や健康増進に貢献しています。